

景観マネジメント部門



日米の緑地環境ホームページにおけるバリアフリー情報開示の現状とその特徴

Examining available information related to providing access for people with disabilities on the Japanese parks and outdoor recreation website: Comparisons with United States parks website

要 約

公園などの緑地環境においては環境や景観の制限により、ハード的なバリアフリー化に一定の制限があることが多い。このような場合、バリアフリー情報の十分な開示が末端利用者の実質的な利便性向上に大きく貢献できる。しかしながら、特定のガイドラインがないこと等から、このような緑地環境における情報開示への取り組みは全容が明らかではない。そこで、本課題では主要な緑地環境を対象に、ホームページによるバリアフリー情報開示の取り組みについて調査を行い、特に日米の比較を通して、それらの特徴を考察した。その結果、国内の場合、都市公園等を管轄している国交省系からのバリアフリー情報の開示割合が高かったが、その項目が（ハード）に偏る傾向が顕著であった。

研究者

美濃 伸之
MINO Nobuyuki

http://www.awaji.ac.jp/new_www1/lecture/private/mino/index.htm

■ 目的

公園などの緑地環境においては環境や景観の制限により、ハード的なバリアフリー化に一定の制限があることが多い。このような場合、バリアフリー情報の十分な開示が末端利用者の実質的な利便性向上に大きく貢献できる。しかしながら、特定のガイドラインがないこと等から、このような緑地環境における情報開示への取り組みは全容が明らかではない。そこで、本研究では主要な緑地環境を対象に、ホームページによるバリアフリー情報開示の取り組みについて調査を行い、特に日米の比較を通して、それらの特徴を考察した。

■ 結果と考察

- ①米国の場合、国立公園と州立公園とで開示割合に差が見られるものの、両者ともに（ハード）、（利用者の視点）、（ソフト）の3タイプのバリアフリー情報がバランス良く開示されていた。
- ②国内の場合、都市公園等を管轄している国交省系からのバリアフリー情報の開示割合が高かったが、その項目が（ハード）に偏る傾向が顕著であった。また、環境・農水省系からはバリアフリー情報そのものの開示がほとんどなかった。一方、観光部局や保健福祉部局からも緑地環境に関するバリアフリー情報が開示されていたが、国交省系と同様に項目が（ハード）に大きく偏る結果となった。

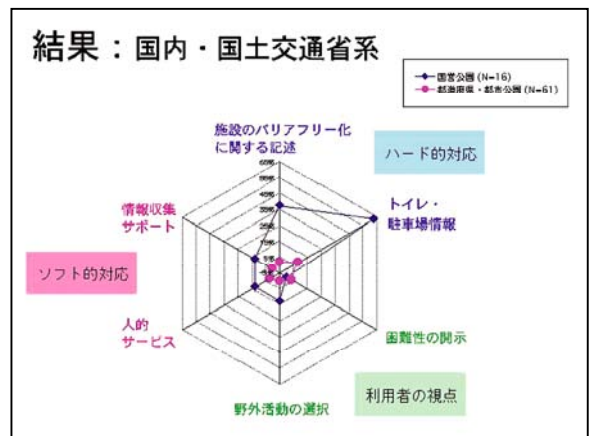
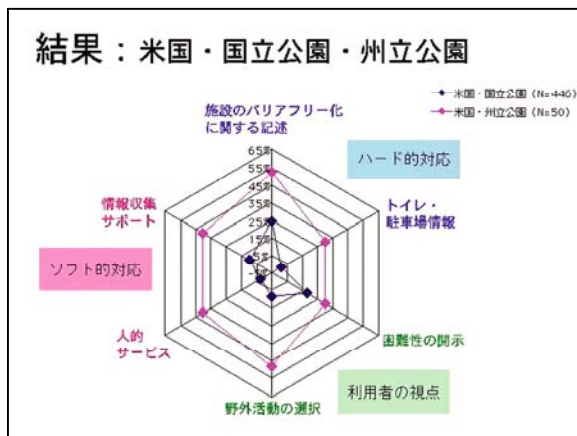


図 日米の公園バリアフリー情報のちがいを